

5年生が防災学習をしました



12月19日（金）に5年生が総合的な学習の時間「ふるさとを守る」で、防災学習をしました。前半は、ぎふ女性防災士会の伊藤会長さんから、避難所の運営について話を聞きました。災害が起きて避難所に多くの人が避難してきたときに、どんな役割が必要か、その役割をする上で大切なことは何かを考えました。特に、地震や水害で断水すると普通のトイレは使えなくなるため、普通のトイレにビニール袋や凝固剤、新聞紙を使い、排泄物を処理する方法を教えていただきました。「排泄物を見たり排泄物の入った袋を持ったりすることはあまり気が進まないことだけど、トイレを我慢することはできない。人が生きていくためにはやらなければならないこと。」という言葉が印象的でした。

後半は、瑞穂市の市民協働安全課の所さんから、西小の中庭にある防災倉庫に入っている防災用品や、北舎2階の食糧庫を見せていただきました。また、段ボールベッドを組み立てて実際に寝転がったり、非常食のアルファ化米のご飯を準備して試食したりしました。

避難所では、避難者がみんなで考え、助け合って生活をしないといけません。小学生でも自分でできることを考え、災害時に生きさせるように、体験を通して学ぶことができました。